

# 第一原案（プロデューサー案）

制作プロデューサー 宇高 亜未  
「風街スクール」監督 夢木 薫

## □主人公

### 名前

彩名 皐月（あやな・さつき）

### 性別・誕生日

男性・3月5日

### 宗旨・思想

プロテスタント（ただし、あくまで名目上のみ）

### 出生地・現住所

イギリス・オックスフォードシャー州オックスフォード市  
日本国岩手県岩本市向井区向井本町 1 丁目 3-5-15

### 来歴

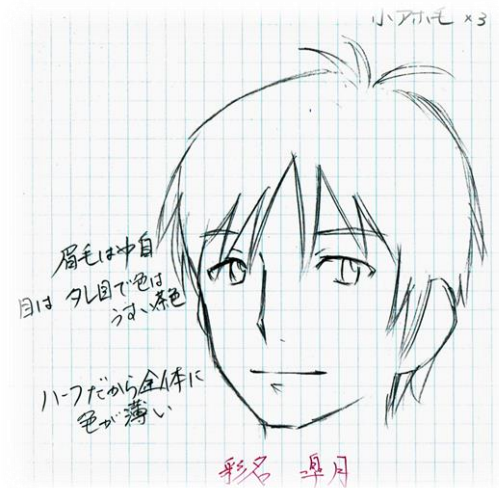
イギリスのオックスフォードに生まれる。  
中学校のとき単身で日本に帰化。  
某県立進学校入学。  
六星学園に編入。

### 人物

もともと頭脳は超明晰で、人とあまり関わらずに生活してきた。周りが劣って見えるので、かなり偉そうに見えてしまう。六学に入った理由は家に近いからで、自分が最下位になるほど高レベルの高校だと知らなかった。冷静なタイプで、周りに関わろうとしなかった。発明家である祖父を尊敬している。六学に入ってから、大人びた雰囲気が大きく崩れてしまう。発明家の祖父を尊敬している。

### 家族

ハウエル・ジョーンズ（故） 父 オックスフォード大学在学中、交通事故で死去



彩名結（ユイ・ジョーンズ） 母 大灘高校、オックスフォード大学出身。通訳  
彩名鉄郎 祖父 六星学園卒業、北東北大学大学院修了。発明家

#### 備考

六星学園へは特殊推薦入試での出願受験、合格。

母がイギリスで仕事をしているため、前の学校では単身で通っていた。ある日母からの手紙によって引っ越しを決意し、六学に編入する。

しかし天才故の奢りか、六学の編入試験を兼ねた考査では人生初の最下位を喫する。それ以来自分を見つめ直し、この学校で自分を磨くことを決心する。

宮藤のことが気になって仕方がないが、如月のことしか見えてないのがわかるので、間柄の進展に期待できないため息を漏らす。

祖父は名の知れた発明家で、自宅兼研究所にこもっている。得意な分野はコンピュータだが化学や生物、物理の分野でも権威として有名。だが謙虚で、近所づきあいも良いので、生徒たちにも人気がある。

実は六星学園の校長とは同期で、自身も六星学園の卒業生。

#### □テーマ

学園推理もの。部活動要素も見られるが、探偵倶楽部（後述）は厳密には部活動ではない特務であるため、先のように呼称する。

学校での物語がメインで、そこに事件が絡んでくることになる。また学園ものなので、恋愛の要素も混じってくるのが予測される。

#### □第一話「舞台（ステージ）の上へ」

##### <Aパート>

とある地方進学校に通う皐月の元に、海外で仕事をしている母から「おじいさんの元へ引っ越して、一緒に暮らさない」という手紙が届く。それに従い、岩本市に向かって祖父（彩名鉄郎）と再会する皐月。尊敬する祖父と暮らすことができることに喜ぶ皐月は、照れくさそうに彩名研究所（自宅）での生活をはじめのだった。翌日には私立六星学園高等学校の編入試験を受け、家に戻ると、そこには半年ぶりに顔を合わせる母（彩名結）が待っていた。

次の日に合格の知らせが入る。六星学園に行くと、夏季休業中で静かな職員室に副担任の先生（大和賀裕紀）がいた。これから皐月は六星学園の2年A組生徒になる。大和賀はクラスの学級委員の相鈴楓花を呼んで、皐月と一緒に学校の中を案内させる。案内が終わったあと楓花と別れた皐月は、帰りに校地内でガ

ラの悪い二人組（佐崎健、陵堅）に出会う。家に帰って学校の不満を母にぶつけると、祖父は六星学園がどのような学校であるかを皐月に語る。それを笑い飛ばし、皐月は眠りにつく。

夏休みが明けた登校初日、家を出るときに母は皐月に「頑張ってるね」と声をかける。その真意がわからずに皐月は学校に登校すると、ホールに人だかりができていた。皐月に気づいた楓花は、休み明け試験の結果が張り出されたことを説明する（編入試験と休み明け試験は同じ内容）。そして一緒に自分の成績を確認した皐月は、自分の名前が最下位に掲示されていることに愕然とするのだった。

教室で担任（鉦利八重）に紹介される皐月、それを見ていた先日のガラの悪い生徒の一人（佐崎健）がフツ笑い、それに気づいてムツとする。席は一番後ろの廊下側で、隣の生徒（礼尾蘭）に「よろしく」とあいさつするが冷たく無視されてしまう。そのまま HR が始まる。

その頃、職員室に一報が入っていた。盗難事件解決の依頼である。校長室に 2A 副担任が依頼書を持って行き、校長に報告する。こうして 2A で事件解決を目指すための「探偵倶楽部」を結成する許可が下りた。

授業が終わって弁当を一人で食べている皐月、ケータイを開くと前の学校で唯一だった友人からメールが届いていた。返信を入力していると、机の前に女子二人（相鈴楓花、宮藤紫）が立ち一緒に食べようと誘う。すると隅で弁当を食べていた男子二人（メイリオ、鷹浪隼斗、如月栄人）に「女子と一緒に食べるのはイヤだろ」とグループに誘われる。一緒に食べると意外に楽しいことに気が付いた皐月だったが、健の視線に不快さが増し、栄人に「いつものことだから」とフォローされる。

皐月は楓花にノートを借りたとき、担任の八重と副担任の大和賀が教室に入ってきて騒いでいる教室をしずめた。席に着いた生徒たちに向かって、八重は「今年度初の事件解決の依頼が入ってきました」と告げ、クラスがざわつく。どういふことか蘭にたずねる皐月だが無視され、かわりに反対の席の女子生徒（日比谷啓）に説明される。つまり「伝統的に、事件解決の依頼が入ったら 2 年 A 組の中から『探偵倶楽部』として数名が選抜され、その事件を解決に導かなくてはならない」というものだった。意味がわからないというように、皐月は首をひねった。八重は続ける。「立候補が出なかったら、わたしたちで指名することになるわよ」。その言葉に、みんなからえー！とブーイングが上がる。結局立候補者が出ず、大和賀は名前を読み上げた。最終的な探偵倶楽部メンバーは委員長の相鈴楓花、それを聞いたメイリオが立候補、過去に事件を解決したことのある如月栄人、真面目な小沢一太郎、クラスのまとめ役寺内夏希、そしてなぜか皐月の名前が呼ばれる。驚いて混乱している皐月に、近くの席の男子生徒（夢河鬱蒼）が「せいぜい頑張りな、転校生」と言われる。

### <B パート>

放課後、校長室の前に立つ 2A 担任の八重と、探偵倶楽部に抜擢された六人。緊張している六人は校長室に入り、校長の前であいさつして退出するが、皐月だけ呼び止められる。そして校長は、皐月の祖父鉄郎と親友だったことを明かす。そのまま事件現場へと向かうことになった皐月は事件の詳細もろくに聞いていなかった。

現場は同市江北区にある江北ショッピングモールの中心にある展示場。そこで開催されていた絵画が盗まれたのだ。会場に六人が到着すると、空になった額縁の前に立ち尽くしている担当者、ショッピングモール運営責任者がいた。話を聞くと、ショッピングモールはリニューアル直後で警察沙汰にはしたくないため依頼したということだった。さっそく調査を開始しようとする六人に、ついてきていた副担任の大和賀に、ペアを作って三組で捜査す

ることを提案され、もめる。結局一太郎・夏希ペア、メイリオ・楓花ペア、栄人・皐月ペアで決着がつく。メイリオは大張り切りで、テンションが高くともに調査ができていない。夏希ペアは聞き込みなど、刑事のような地道な捜査。皐月ペアは監視カメラの映像を確認したり、会場を隅々まで見て回ったりしている。夜まで続いた捜査の結果、如月が壁の不自然な傷あとを見つけただけで終わった。

帰宅した皐月はご飯をかきこんだあと、すぐに部屋へと入ってしまうのだった。それを黙って見つめる母は溜息をもらし、鉄郎とかすかに笑いあうのだった。

次の日、学校に早く登校した皐月。すでに教室には楓花と夏希、それと学校一の美女である宮藤紫が捜査会議をしていた。犯人に目星をつけていく彼女たちに巻き込まれ、皐月も色々と考えてみる。そこに栄人がやってきて一言「事件を解決するって、犯人を見つけることじゃないんだよ」と誰とも目を合わせずに言う。それを聞いた紫は、栄人が過去に解決したという事件について問いただが、結局栄人は何も答えなかった。

その日の昼休み、隣の席の啓に事件を解決できそうかたずねられるが、皐月はあいまいにしか答えられない。するとそこに栄人がやってきて、弁当にさそわれる。そのまま屋上に行って二人きりで弁当を広げる皐月と栄人。そこで皐月に推理を聞かせた栄人は、最後に「たぶん、盗まれた絵は戻ってくると思うよ」とつぶやいた。

放課後に探偵倶楽部がショッピングモールにやってくると、栄人の言った通り、絵は匿名で返却されていた。推理を聞かされていた皐月は驚き、栄人の推理をみんなに聞かせる。結論は「関係者なら誰にでもできるトリックだし、絵が返ってきたからそれで問題ない」ということ。推理をした栄人自身は何も言わずに、一人だけ先に帰ってしまった。

校長に事件解決の報告をする探偵倶楽部メンバー（栄人以外）。校長は五人をねぎらうと、ジュースをおごるのだった。だが遠い目をしている校長に気が付く者は、誰もいなかった。

#### <Cパート>

休日、知らない番号から電話がかかってくる。出ると夏希だった。これから探偵倶楽部の事件解決を祝って、クラスを挙げてパーティをするとのこと。会場は喫茶店「有絵亭」である。あまり乗り気ではないが、仕方がないと重い腰を上げる皐月。

送られてきた地図をたよりに、なんとか有絵亭にたどり着く皐月。ドアを開けて店内に入ると、広くはない店に大勢のクラスメイトと「祝！探偵倶楽部が初の事件解決」と大きく書かれた紙が貼られている。そこには談笑する如月の姿があり、少しホッとすする皐月。そのとき、脇から夢河が「よお、おまえのおかげで事件解決したんだってな」と肩を組んでくる。夏希に「そうよ、皐月くんが推理してくれたの」と言われ、違うと反論しようとしたが、クラスメイトの一人（本条宇宙）が紙コップを渡してくれたので、結局苦笑いの皐月。メイリオが寄ってきてリングジュースをつぎながら「そういえば、いいんちよは？」とみんなに聞く。「遅れてくるって」との夏希の答えに、しょんぼりするメイリオ。そして隼人が皐月に気づいて「おーい、主役の登場だぞー、拍手ー！！」と叫び、店内に手を叩く音が響いた。一緒に拍手している栄人の笑顔を見ていた紫は立ち上がる。カウンターに座った皐月は店員でクラスメイトの内藤菜緒に声をかけられ、紅茶を注文する。その隣の椅子に紫が座り、皐月の顔をのぞきこみながら「ねえ、皐月くんの推理ってさ」。赤くなる皐月、次の「如月くんが言ったことだったんじゃない？」という一言でリングジュースを吹き出すし、慌てて拭く。「な、なんで……」としどろもどろの皐月。クラスメイトの関西弁の女子（糸井真里）に冷やかされるが、紫は真顔だった（ちなみに、皐月が紫のことを意識するようになったのはこのとき）。問いた

だされた皐月が正直に答えると紫は「ホントは如月くん、犯人も何もかもわかってるんじゃないかな」とつぶやく。そこにメイリオがやって来て、大声で「みんなー、恒例の『通過儀礼』の時間だぞー！」と叫んだ。その後無理やり変な飲み物を飲まされる皐月、吐きそうになる。そのときに楓花が店にやって来て、みんなにねぎらわれる。楓花は皐月の神妙な顔つきに気が付いて、どうしたのかたずねる。そこで紫は探偵倶楽部の栄人を除く四人を集め、外に連れ出すと、栄人が真実を隠していると思うことを伝えた。調査を再び開始しようとする四人と紫だったが、事件解決の時点で探偵倶楽部は解散されていることを盾に、夏希は捜査に参加しないと断言する。結局何も決まらないまま、六人は騒がしい有絵亭の中へと入っていくのだった。

休み明け、学校で授業が終わったあと、六星学園の校舎内に探偵倶楽部の栄人と夏希を除くメンバーと、紫の名前が呼び上げられた。職員室前に集まる五人の目の前に、夏希がやってきて急に呼び出したことを謝る。職員室に入った六人は、担任の八重の席に行く。そこで夏希は正式な部活動としての「探偵倶楽部」の創設を報告すると、八重とほかの五人は驚いて夏希を見つめた。結局、規則にのっとり「探偵倶楽部」は第三種の部活動として認可され、校長に挨拶していくことになった。最初はいい顔をしない校長だったが、栄人のことを聞くと活動内容を受け入れた。こうして、六星学園の長い歴史の中で初めて「探偵倶楽部」は特設ではない常設の部活動としての活動を始めることになる。

休日に有絵亭に入ってくる皐月、それに気づいた一太郎が奥の席へ手招きする。菜緒が紅茶を淹れながら「男二人で待ち合わせなんて、めずらしいのね」と言うと、皐月は反論せずに「ちょっとね」。実は皐月が一太郎を呼び出したのだった。探偵倶楽部としてではなく、単なる同級生として色々聞きたいことがあったのだ。——クラスメイトのこと、勉強のこと、部活動のこと。時折菜緒も会話に加わりながら、六星学園のことを知ろうとする皐月。そこへ夏希が店に来て、皐月を花札に誘う。色々指南してもらいつつ、さらに色々な話を聞く皐月は、クラスの問題児のことや、紫の栄人への恋心を知る。皐月が紫を気にしていることに気づいている夏希は一言、「お互いに頑張ろうね」と言った。（その日のうちに皐月は花札を覚え、夏希と対戦したが勝てなかった。一太郎との対局は1勝1敗1引き分け）

次の日の学校で、皐月は栄人に先日の事件について問かけようとする。そこに紫がやって来て、皐月を栄人の元から無理やり離すと「如月くんには、何も言っちゃダメだよ」と怒った。そんな紫の様子にしゅんとなる皐月。

その日の夕方、副担任の大和賀に探偵倶楽部のメンバー六人（紫含め、栄人除く）が招集された。探偵倶楽部の伝統の成り立ちや、過去に解決された事件などを詳しく聞かされている最中に、校長が現れて栄人について語り始める。栄人は過去に三重県で起きた事件の謎を解き、それが事件に対するトラウマになっているというのだ。そして探偵倶楽部のメンバーから如月を外す校長。「だが、彼の探偵としての能力は、この場にいる六人を合わせてもかなわないだろう」と言い、今後の事件では栄人からも協力を得るべきだと言い聞かせる。

#### <Dパート>

夜、ハッとした皐月は夕食もろくに食べずに家を飛び出した。同じころ、ほかの五人も同じように家から外へと駆け出していた。江北ショッピングモールに集う六人、みんな同じことを言った。「謎が解けた」と。絵を盗んだ犯人である運営責任者のいる管理棟へと向かう六人の目の前に、柱の陰に寄りかかっていた栄人が現れる。栄人はちょっと困ったような表情を浮かべ「どうやら、わかっちゃったみたいだね」と言って六人を止めた。その推理を公表することで、誰が不幸になり笑顔が奪われるのか。事件で出た被害は、捜査にかけた時間以外になにもな

かったこと。それを聞いても事件に終止符を打とうとする皐月とメイリオ、楓花。しかし一太郎や夏希、紫は栄人の言葉を受け止めて、推理を公表しないことを決意する。対立する六人は、結局一晩考えてから結論を出すことに決め、それぞれの家へと帰っていった。

その日の夜、皐月はこれまでの出来事を結に相談する。学校に馴染めるか心配なこと、人間関係のこと、探偵倶楽部で事件の解決を巡ってもめていること……。結は黙って聞いていたが、これは試練のようなものよ、と意味深にその場から立ち去った。皐月は部屋の電気を消して、黙って考えていた。しかし腑に落ちない顔をしたまま、眠りに落ちるのだった。

学校に登校すると、紫が欠席だった。個々に顔を見合わせるメンバーたちだったが、会話を交わすことなく放課後を迎える。楓花、メイリオ、皐月と数人のクラスメイトが有絵亭で思い思いの時間を過ごしていると、永井笙が慌てた様子で飛び込んできて「大変だ、宮藤さんが誘拐された！」と叫んだ。一同、全力で学校へと向かう。校長室に飛び込む皐月たち。そこには残りの探偵倶楽部のメンバーが揃っており、校長が電話で何やら話をしていて、部屋が焦った空気に包まれている。そこに「失礼します」と間の抜けた声で入ってきたのは、なんと鉄郎であった。驚く一同から状況を教えられた鉄郎は、皐月を呼ぶ。その時に栄人が校長室に飛び込んできて「ぼくに指揮をとらせてください！」と訴えた。捜査に隠し事をする人はいらないと、メイリオはあくまでも彼を突っぱねる。対する楓花は、この状況下では誰もが協力するべきだと、栄人を誘拐事件を解決するための一員として認めるように言う。困った皐月に鉄郎は「リーダーとして彼に働いてもらいながら、現場の判断を第一に捜査したらいい」とアドバイスする。その言葉通りに、栄人を中心とした、宮藤紫誘拐事件の捜査が始まる。

結果として、紫の誘拐は犯人の誤認によるものだったと判明した。関係のない紫を解放するように交渉した栄人は、見事に無傷での解放を勝ち取った。必死にこなす栄人を協力しながら見ていた皐月は、何かを思いついたように、探偵倶楽部のメンバーに呼びかける。

別の日、ショッピングモールに集まるメンバー。最後に紫が到着したが、皐月は「もう一人来るから」と言って、その言葉通り栄人が姿を現す。栄人を加えた7人で、真犯人である運営責任者を訪れ、皐月は「子どもたちに笑顔を与えるような、そんな仕事をしてください」と約束させる。帰り道、栄人は「これが、一番いい結果だったんだね」と、自分のやり方の間違いを認め、メンバー6人の元を離れようとした。しかし皐月はそれを止めた。7人で有絵亭に行き、誘拐事件解決の祝福パーティが行われる中、皐月は栄人と笑いながら乾杯し、ドリンクを口にする。そして有絵亭に、花札大会に参加する皐月を含めたみんなの笑い声が響いた。

#### <Eパート>

それからしばらくして、皐月は自分の部屋の窓を開けて、机に頬杖をついて外を見ていた。そこに鉄郎が「隼人くんという人が電話で、今晚クラスメイトの誕生パーティをしようと言っていたぞ」と部屋に入って来て言った。

その言葉に、口元に笑顔を浮かべた皐月は「わかった」と言ってペンを置いて立ち上がった。そこには母に書いている手紙が残される。そこには軽い字体で「いまの生活は、すごく楽しくてしかたがないです」。

おわり